

2025年8月19日

学校法人 東放学園
専門学校東京アナウンス学院殿

専門学校東京アナウンス学院
学校関係者評価委員会

2025年度 学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価委員

【関連業界】

中山 博実 一般社団法人日本芸能マネージメント事業者協会 理事

【高校教員】

中濱 敏彦 星槎国際高等学校 星槎中野サテライトキャンパス フェリーチェ高等学院 教頭

【卒業生】

坂上 晶 専門学校東京アナウンス学院放送声優科卒業生/声優

【保護者】

田頭 心 声優科1年生保護者

2. 事務局

船場 吉行 専門学校東京アナウンス学院 校長

川田 泰弘 専門学校東京アナウンス学院 教務教育部長

大橋 真由美 専門学校東京アナウンス学院 学務管理部長

上野 浩一郎 専門学校東京アナウンス学院 学校評価委員※当日欠席

下田 孝祐 専門学校東京アナウンス学院 学校評価委員

多田 圭吾 専門学校東京アナウンス学院 学校評価委員

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

2025年8月19日(火)15:00～17:00

専門学校東京アナウンス学院新宿研究所4階 403教室

4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

学校関係者評価結果

【評定の内容】

- 4:適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
 3:ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
 2:対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
 1;全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

I. 2024年度重点目標について

重点目標1.先進的カリキュラムの検討

コメント	評定
2024年度も先進的カリキュラムの検討を継続し、企業や在校生アンケートを参考に業界が求める人材像を踏まえて授業を構築している。今年度は進路決定率向上と中途退学防止を重視し、2年次には進路変更を支援するセーフティネット授業を設置し内容を充実させた。また、学科横断授業を新設し、裏方スタッフの理解や視野拡大を促進。「TOHOチャンネル」や「2.5次元的舞台制作実習」なども導入し、学生が協働して学べる仕組みを整えた。	3

重点目標2.業務効率化と学生サポート

コメント	評定
業務効率化と学生サポートは昨年度から継続して取り組んでいる。業務の多様化に対応するため、システム面では「キャンパスプラン」を活用し、出席・成績確認や履修登録をWeb化して効率化を実現。一方、学生サポートでは中途退学防止を重視し、部活動の復活やカラオケ大会など居場所づくりを推進した。これにより教職員と学生の交流が深まり、モチベーション低下を防ぐ効果が見られ、中途退学数も改善傾向にある。	4

重点目標3.職業実践専門課程の認定申請と準備

コメント	評定
声優科で職業実践専門課程の申請を行い認定を受けた。認定要件として企業と連携した授業が必要なため、企業担当者やタレント、アナウンサーによる授業を開講している。また、教職員は業務の多様化により新しい情報に触れる機会が減っているため、定期的な研修を通じて企業等との交流を継続し、最新の知識や技術を取り入れている。今年度は残る4学科の申請を準備中である。	4

重点目標4.中途退学率低減

コメント	評定
2023年の7.22%から2024年は5.1%と改善している。要因としては担当教職員が学生とこまめに連絡を取り、早期フォローを行い不登校を未然に防いだ点大きい。また、授業以外でも楽しめるイベントを実施し、学生の居場所づくりに取り組んだことも効果的であった。さらに、学園総合情報システム「キャンパスプラン」の導入により、学生自身が取得時間数や欠席数を把握できるようになり、自己管理を促せたことも改善に繋がったと考えている。	4

重点目標5.進路決定率向上

コメント	評定
2023年度の93.5%から2024年度の92.3%と微減となった。学生の進路の多様化も進んでおり、今までにないVTuberなど新しい職業を目指すケースも増えている。卒業後の生計維持を鑑みアルバイトとの両立も含め、生活基盤を確保しながら進路を実現できるよう引き続きサポートしていく必要がある。	3

II. 評価項目別取組状況について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

コメント	評定
教育理念や育成人材像の浸透は依然として課題であり、教職員だけでなく講師も含め、学校の目標や教育の視点を共通理解する必要があると考えている。現在は年1回開催される講師会で理念や方針を伝えているが、内容をより丁寧に説明し、参加者全員が理解できる工夫が求められる。また、ホームページに掲載している公表書類についても、内容を分かりやすく整理・提示することで、教職員や講師が教育理念や育成人材像を日常的に意識しやすくなる。今後はこうした取り組みを通じ、東放学園ならではの教育システムや理念を学内全体で共有し、教育の質向上に繋げていくことが必要である。	3

基準2 学校運営

コメント	評定
「己と和と成長」が本学園の基本理念となっている。学生には募集要項や学生内部資料で、教職員にはポータルサイトで共有している。東京アナウンス学院では「表現者は人の未来を変える」をコンセプトに、エンターテインメントの楽しさを知り、人を楽しませる方法を身につける教育を5か年計画で実施。教職員会議や年間目標計画でも理念を意識し、学内全体で共有・実践できる体制を整えている。	4

基準3 教育活動

コメント	総合評価
<p>現状の課題としてはディプロマの検証が不十分で、卒業後の活躍との結びつきが明確でない点が挙げられる。また、教育課程の可視化も求められているため、校長主導でカリキュラムツリーやマップを作成している。</p> <p>成績評価では、芸術系授業の技術や表現は主観が入りやすく公平な評価が難しいため、多段階評価や共通評価軸の導入を進めているが、既に一部授業では実施中である。キャリア教育は企業連携を強化し、資格は業界に役立つものを選定して授業に組み込んでいく。</p> <p>また教員及び非常勤講師への研修の充実や法令に基づく合理的配慮の研修実施を通じ、教育や学生対応の質の向上を図る必要がある。</p>	3

基準4 学修成果

コメント	総合評価
<p>学生の多くがデビューを目指すため就職率の把握は難しいが、近年は就職を希望する学生も増えており、就職サポート系の授業やセミナーを積極的に実施している。資格取得は分野に適したものが少なく評価が難しい。卒業生の社会的評価については、TOHO会やキャリアサポートセンター、講師のつながりを通じて情報を収集しているが、個人情報保護の制約もあり完全な把握は難しい。ただし、卒業生の学校訪問や授業発表への参加を通じ、現状の把握や学生へのフィードバックに活用している。</p>	3

基準5 学生支援

コメント	総合評価
<p>進路指導では、就職担当や各学科担当が連携しGoogle Classroomで情報を共有、就職に関心のある学生は登録して最新情報を受け取れる体制を整えている。さらにキャリアサポートセンターと校舎担当は会議や教職員会議でデビューオーディション情報を共有している。学内オーディション「星誕オーディション」では多くの企業に来校を促した結果、本オーディションで進路決定している学生も多くなる。</p> <p>退学率低減では、カウンセラーの相談支援やアドバイザーによる欠席フォローを実施し、留学生相談体制も学内担当者とインターナショナルセンターが連携して整えている。</p> <p>経済支援では奨学金利用者が約70名おり、多子世帯支援も拡充している。</p> <p>学生の健康管理は定期健診や校医の相談体制を整備し、提携学生寮では寮長と連携して体調確認を行っている。課外活動はクラブ活動の復活を進め、教職員が顧問として支援している。</p> <p>保護者とはCampus Planで出席・成績情報を共有し、情報発信の充実を図っている。卒業生支援では同窓会や会報誌、星誕オーディション参加、授業見学や声優科のデビューサポートなどを行っているが、より充実した学校全体での卒業後支援は今後の課題である。</p>	3

基準6 教育環境

コメント	総合評価
<p>本校では、長期計画に基づき機材の更新をし、更に新校舎「西新宿四丁目」の活用を進め、授業やイベント、学生の自主練習に利用できる体制を整えている。学外実習や海外研修は安全や運営上の課題で一部実施が難しいが、今後の整備を検討している。防災面では災害対策委員会が中心となり備蓄品の確保や避難訓練、教職員の消火器訓練を実施。また安全管理では外部警備を導入しているものの、校舎構造上の課題や近隣環境もあり、今後体制強化の余地がある。</p>	3

基準7 学生の募集と受入れ

コメント	総合評価
<p>入学広報センターが高校訪問や日本語学校へのガイダンスを行い、入学希望者や保護者、高校教員に資料提供や相談対応を実施している。また中学校や高校、日本語学校からの見学希望にも対応している。募集活動ではパンフレット作成やWeb公開を計画的に行い、総合型選抜、推薦入学、一般入学の制度を設け、地方・海外・オンライン入試にも対応している。入学選考データは毎年蓄積され、カリキュラム改善や学納金の算出、返金対応に活用している。近年はSNSやLINEでの相談件数が増加しているが、相談内容によりオンラインと対面のバランスを見極め、安易な入学による退学防止の対策としている。</p>	4

基準8 財務

コメント	総合評価
<p>中長期的な財務基盤は安定しており、出願数などをもとに予算編成を行い、複数担当によるコスト管理で進行状況を確認している。教育目標との整合性を踏まえ、5か年計画と単年度事業計画に基づき収支計画を策定し理事会で報告・確認を行う。予算執行は所属長承認の下で実施し、予算と決算に乖離は生じていない。また監査法人と学園監事による監査を実施し、理事会承認の上で財務諸表を公開しており、適正な財務運営と情報公開体制が整備されている。</p>	4

基準9 法令等の遵守

コメント	総合評価
<p>法令遵守のため、学校と法人本部が連携し学則や規程の見直しを適宜行い、全教職員に周知して適切な運営を実施している。個人情報や規程に基づき管理され、電子データは専任管理者がバックアップ、紙資料は施錠し金庫で保管。情報管理委員会が主導し、ITスキル向上や意識啓発も行う。自己評価は学則に基づき毎年委員会で実施し、教育情報はWebで公開している。</p>	4

基準10 社会貢献・地域貢献

コメント	総合評価
<p>地域貢献・社会貢献については、依頼があれば対応する形で、学生が自主的にボランティアを行った実績はない。強制するとボランティア性が失われるため、祭りの手伝いや献血支援、新宿区でのダンス出演も依頼ベースで実施した。今後も教育資源を活かしたボランティアに関しては学生をサポートしたい。国際交流では、留学生が増加しており、学内交流会や留学フェア参加を通じ交流を促進している。</p>	3

5. 所感

<p>今回の学校関係者評価委員は卒業生以外が新任となり、忌憚のない意見が得られた。退学率低減の取組について、入学前のミスマッチ防止や学生スタッフ活用の重要性が指摘され、教育環境や進路支援では、保護者や学生の多様性に応じた対応の必要性、卒業生の社会的評価や専門性活用の実態把握の課題が挙げられた。また、先進的カリキュラムや学科横断授業の意義、学生の視野拡大への評価はあったが、数値やデータを示すことでより見やすく理解しやすい資料作成の要望もあった。</p>

以上